

駐車場整備地区の現状

【駐車場の位置付けによる違い】

- 路上駐車場**：駐車場整備地区内の道路の路面に、一定の区画を限って設置される自動車の駐車のための施設であって、一般公共の用に供されるものをいう。パーキングメーターなどにより、料金の徴収を行うことができる。
- 路外駐車場**：道路の路面外に設置される自動車の駐車のための施設であって、一般公共の用に供されるものをいう。駐車場法その他の法令で安全上の基準が定められている。
- 都市計画駐車場**：駐車需要が広く一般公共の用に供すべき基幹的なもので、かつ、その位置に永続的に確保すべきものである場合に都市計画に定められる路外駐車場
- 届出駐車場**：都市計画区域内において、自動車の駐車のために供する部分の面積が500㎡以上で、駐車料金を徴収する場合に、駐車場法に基づき都道府県知事への届出が必要とされている路外駐車場
- 附置義務駐車施設**：駐車場法に基づき定められた地方公共団体の条例により、一定規模以上の建築物の新增設の際に義務として整備された駐車場施設

【運営形態による区分】

不特定の来訪者が利用できる時間貸駐車場と、利用者があらかじめ決まっている専用駐車場に大きく二分することができる。本資料の実態調査では以下のように区分した。

時間貸駐車場

時間貸駐車場

時間貸しの明示をし、かつ管理人を置いている駐車場

コイン駐車場

時間貸しの明示をしているが、管理人を置かず機械によって管理している駐車場

専用駐車場

専用駐車場

施設に付随し来訪者の利用を想定している駐車場。ただし、車庫的利用のものは除く。

月極駐車場他

月極駐車場・契約駐車場と明示しており、駐車区画が明示されているが、一時預駐車場や専用駐車場の明示がない駐車場

1 OD 調査※から見た京都市の交通の近年の傾向

京都市の交通需要は、平成6年度から減少傾向にある

京都市から出てくる交通量,京都市に入ってくる交通量(合わせて発生集中交通量)は、平成2年に2,985千T.E./日※であったのが、平成6年以降減少に転じ、平成17年には2,605千T.E./日(0.87倍)まで減少している。

車種構成比をみると、乗用車が増加傾向にあり、小型貨物が減少傾向にある。バス及び普通貨物は大きく変化しない。

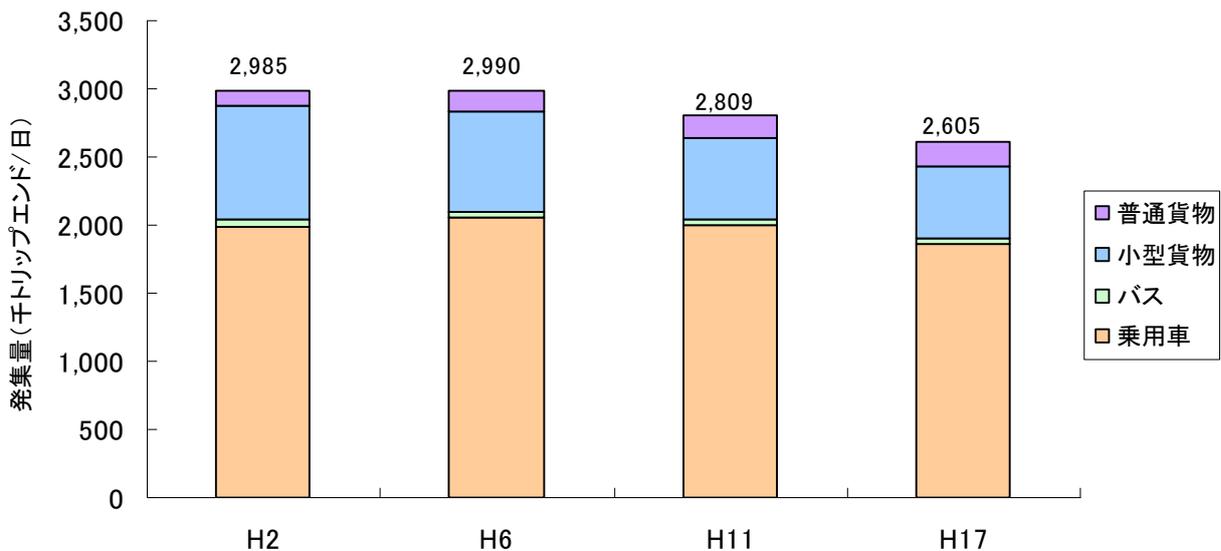


図 京都市における発生集中交通量の変化

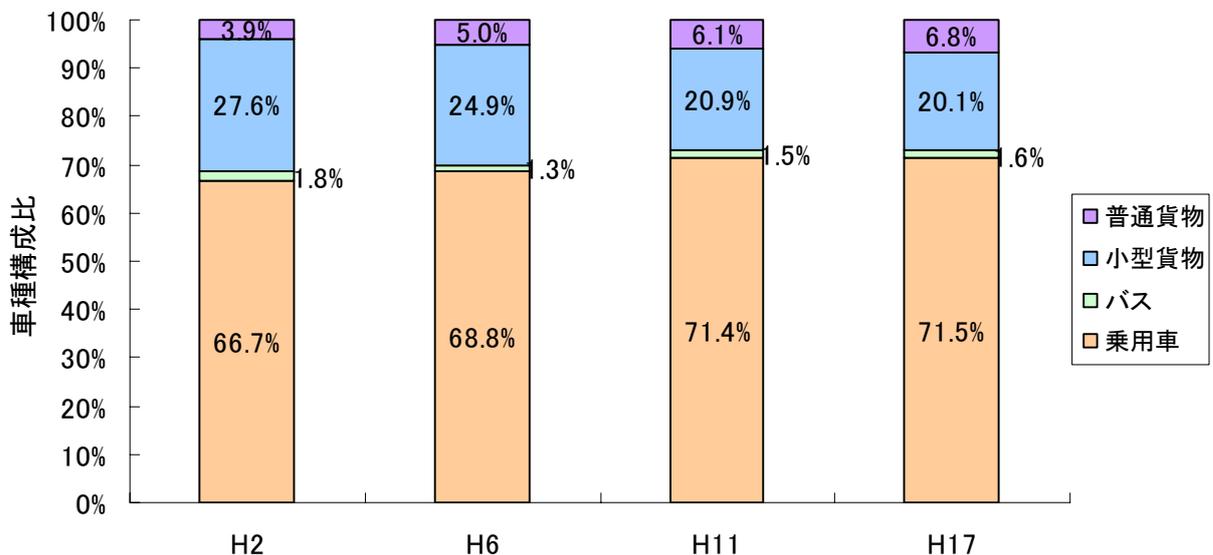


図 京都市における車種構成比

※OD 調査：自動車の出発地 (Origin) や目的地 (Destination) 等より交通特性を把握する調査

※T.E (トリップエンド)：交通調査における移動 (トリップ) の捉え方。

2 駐車場の整備状況

駐車場整備地区には、1,659箇所、25,795台分の駐車場が整備されている

整備箇所数では、特定施設に訪問する車の「専用駐車場」が754箇所で最も多い。都心部地区と京都駅周辺地区を比較すると、都心部では専用駐車場の割合が高い。

都心部地区と京都駅周辺地区を比較すると、京都周辺地区は時間貸駐車場、コイン駐車場の台数が多く、月極その他駐車場の割合が低い。

表 駐車場整備状況

		時間貸駐車場	コイン駐車場	専用駐車場	月極その他	合計
箇所数	都心部地区	84	275	709	448	1,516
	京都駅周辺地区	17	32	45	49	143
	地区合計	101	307	754	497	1,659
台数	都心部地区	6,825	2,160	5,669	6,411	21,065
	京都駅周辺地区	2,048	856	1,053	773	4,730
	地区合計	8,873	3,016	6,722	7,184	25,795

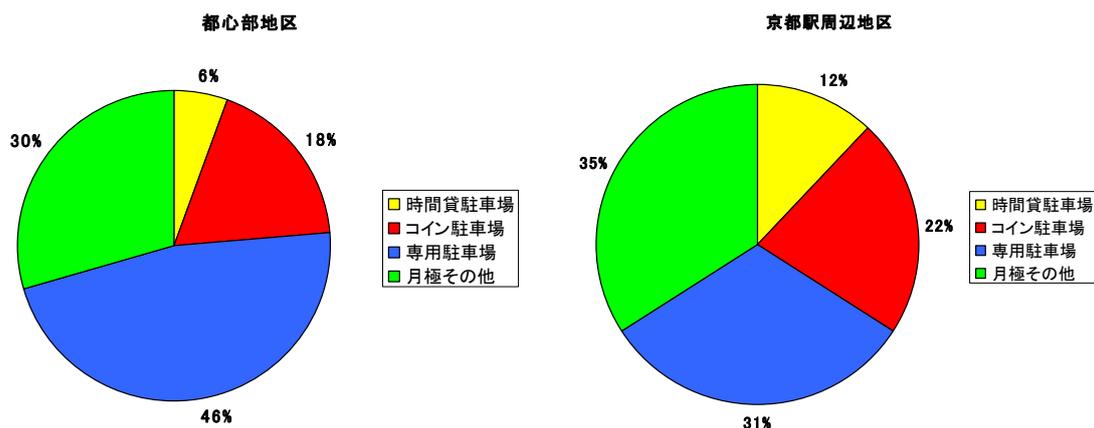


図 駐車場整備箇所数

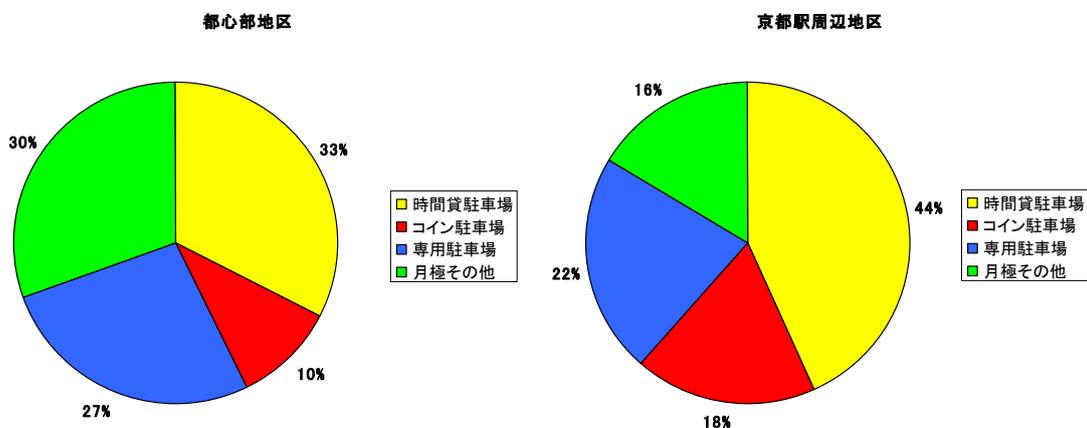


図 駐車場整備台数

3 駐車場の整備状況 過年度からの変化

前回計画策定時と比較すると駐車場整備台数は増加。

不特定の来訪者が利用できる時間貸駐車場の整備台数は、約 11,900 台

駐車場整備地区には、過年度の平成 7 年には 23,615 台分の駐車場が整備されており、過年度から現状までで 2,180 台が増加している。

内訳を見ると、都心部地区では専用駐車場が約 2,000 台増加し、時間貸駐車場が約 100 台減少していた。駅周辺部地区では、専用駐車場が約 200 台減少し、時間貸駐車場が約 600 台増加していた。

専用駐車場の増加については、附置義務制度による民間駐車場の整備が進んだことが、時間貸駐車場についてはコイン駐車場といった民間の整備や御池地下駐車場の公共駐車場の整備が進んだことが要因と考えられる。

表 過年度と現状の駐車場整備台数の変化

	平成7年		平成20年		平成20年-平成7年	
	専用	時間貸	専用	時間貸	専用	時間貸
都心部地区	10,112	9,076	12,080	8,985	1,968	-91
駅周辺部地区	2,075	2,352	1,826	2,904	-249	552
合計	12,187	11,428	13,906	11,889	1,719	461
総合計	23,615		25,795		2,180	

※過年度の専用駐車場は、今年度調査の区分の専用駐車場と月極その他が対応

※過年度の時間貸駐車場は、今年度調査の区分のコイン駐車場と時間貸駐車場が対応

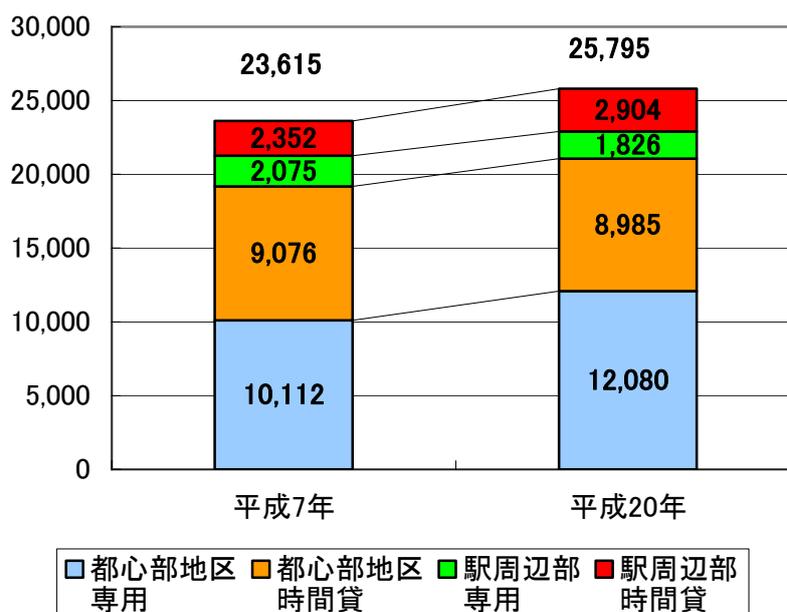


図 駐車場整備台数

4 駐車場の利用状況

平日のピーク時間帯の時間貸駐車場の利用台数は約 6,000 台

平日の駐車場整備地区の自動車利用（駐車場利用台数と路上駐車台数の合計）のピーク時間帯*は、昼間（12 時～15 時）である。そのピーク時間帯では、時間貸駐車場の駐車台数は 4,198 台+1,783 台=5,981 台であった。

都心部地区、京都駅周辺地区で比較すると、利用傾向に差はなく、時間貸駐車場の利用が最も多かった。

表 ピーク時の駐車場利用状況（平日）

		時間貸し	コイン	専用	月極不明	合計
駐車	都心部地区	3,313	1,186	2,212	2,892	9,603
	京都駅周辺地区	885	597	258	371	2,111
台数	地区合計	4,198	1,783	2,470	3,263	11,714
収容	都心部地区	6,825	2,160	5,669	6,411	21,065
	京都駅周辺地区	2,048	856	1,053	773	4,730
台数	地区合計	8,873	3,016	6,722	7,184	25,795
駐車場	都心部地区	3,512	974	3,457	3,519	11,462
	京都駅周辺地区	1,163	259	795	402	2,619
空台数	地区合計	4,675	1,233	4,252	3,921	14,081
駐車場	都心部地区	49%	55%	39%	45%	46%
	京都駅周辺地区	43%	70%	25%	48%	45%
利用率	地区合計	47%	59%	37%	45%	45%

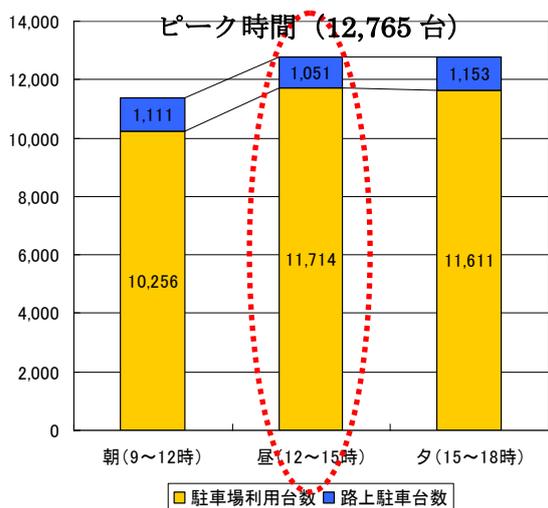


図 時間別の駐車台数、路上駐車台数（平日）

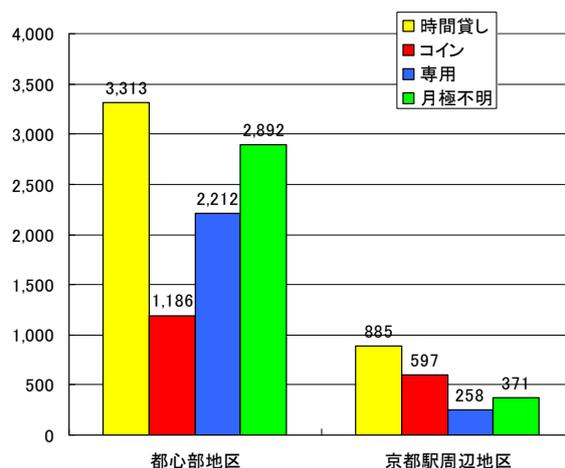


図 ピーク時の駐車台数（平日）

※ピーク時間帯：駐車場整備地区で車の利用が多い時間帯で、駐車場の利用台数と路上駐車台数の合計がもっとも大きい時間帯

休日のピーク時間帯の時間貸駐車場の利用台数は約 7,200 台

休日のピーク時間帯は、夕方（15 時～18 時）であり、そのピーク時間帯では時間貸駐車場の駐車台数は 4,989 台+2,175=7,164 台であった。

都心部地区、京都駅周辺地区で比較すると、京都駅周辺地区ではコイン駐車場の利用割合が多かった。

表 ピーク時の駐車場利用状況（休日）

		時間貸駐車場	コイン駐車場	専用駐車場	月極その他	合計
駐車 台数	都心部地区	3,610	1,438	1,627	3,045	9,720
	京都駅周辺地区	1,379	737	322	375	2,813
	地区合計	4,989	2,175	1,949	3,420	12,533
収容 台数	都心部地区	6,825	2,160	5,669	6,411	21,065
	京都駅周辺地区	2,048	856	1,053	773	4,730
	地区合計	8,873	3,016	6,722	7,184	25,795
駐車場 空台数	都心部地区	3,215	722	4,042	3,366	11,345
	京都駅周辺地区	669	119	731	398	1,917
	地区合計	3,884	841	4,773	3,764	13,262
駐車場 利用率	都心部地区	53%	67%	29%	47%	46%
	京都駅周辺地区	67%	86%	31%	49%	59%
	地区合計	56%	72%	29%	48%	49%

ピーク時間（13,260 台）

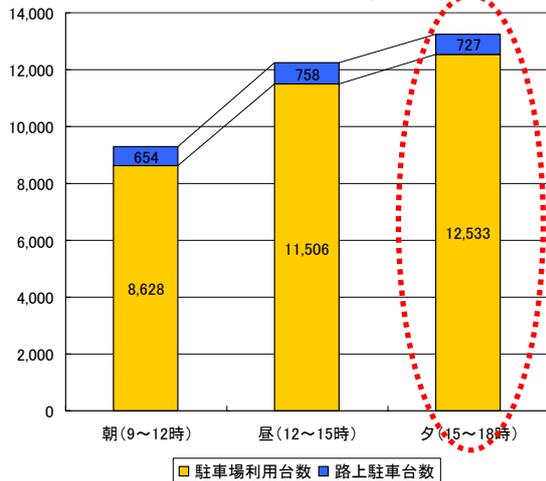


図 時間別の駐車台数，路上駐車台数（休日）

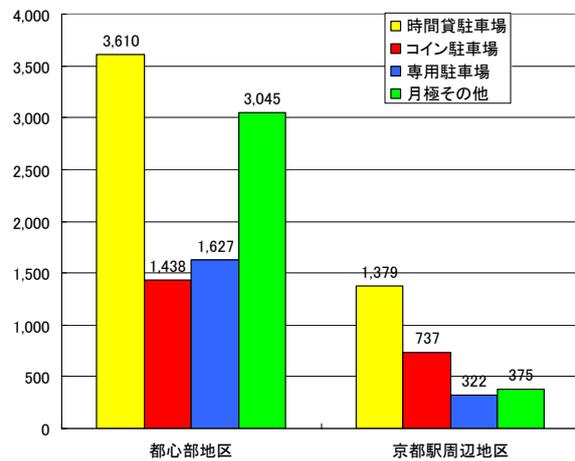


図 ピーク時の駐車台数（休日）

5 路上駐車状況

平日のピーク時間帯の駐車場に収容すべき路上駐車台数は約 650 台

平日の駐車場整備地区のピーク時間帯 昼間（12 時～15 時）の路上駐車台数では、駐車場に収容すべき長時間の路上駐車が 648 台（乗用車 175 台＋乗用車以外 473 台）であった。

都心部地区、京都駅周辺地区で比較すると、路上駐車傾向に差はなく、乗用車以外で、長時間路上駐車する車両が多かった。

表 ピーク時の路上駐車状況（平日）

		乗用車 短時間	乗用車以外 短時間	乗用車 長時間	乗用車以外 長時間	路上合計
路上 駐車 台数	都心部地区	170	192	159	435	956
	京都駅周辺地区	21	20	16	38	95
	地区合計	191	212	175	473	1,051

※短時間：路上駐車のうち、エンジンがかかっている、人が近くにいる等のすぐに移動が出来る状態のこと

※長時間：路上駐車のうち、完全に駐車している状態のこと

※乗用車以外：タクシー、観光バス、貨物車（小型、普通）

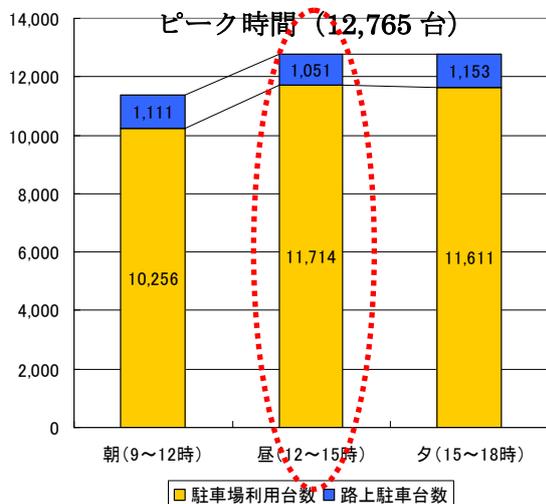


図 時間別の駐車台数，路上駐車台数（平日）

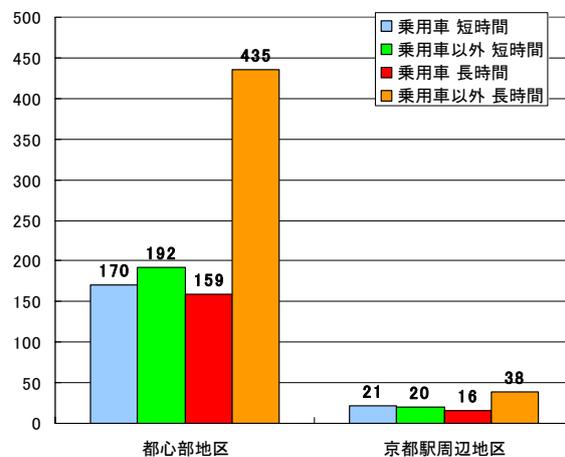


図 ピーク時の路上駐車台数（平日）

休日のピーク時間帯の駐車場に収容すべき路上駐車台数は約 450 台

休日の駐車場整備地区のピーク時間帯 夕方（15 時～18 時）の路上駐車台数では、駐車場に収容すべき長時間の路上駐車が 451 台（乗用車 222 台＋乗用車以外 229 台）であった。

都心部地区、京都駅周辺地区で比較すると、京都駅周辺地区では長時間路上駐車している乗用車が多いことが見て取れる。

表 ピーク時の路上駐車状況（休日）

		乗用車 短時間	乗用車以外 短時間	乗用車 長時間	乗用車以外 長時間	路上合計
路上 駐車 台数	都心部地区	197	56	172	200	625
	京都駅周辺地区	19	4	50	29	102
	地区合計	216	60	222	229	727

※短時間：路上駐車のうち、エンジンがかかっている、人が近くにいる等のすぐに移動が出来る状態のこと

※長時間：路上駐車のうち、完全に駐車している状態のこと

※乗用車以外：タクシー、観光バス、貨物車（小型、普通）

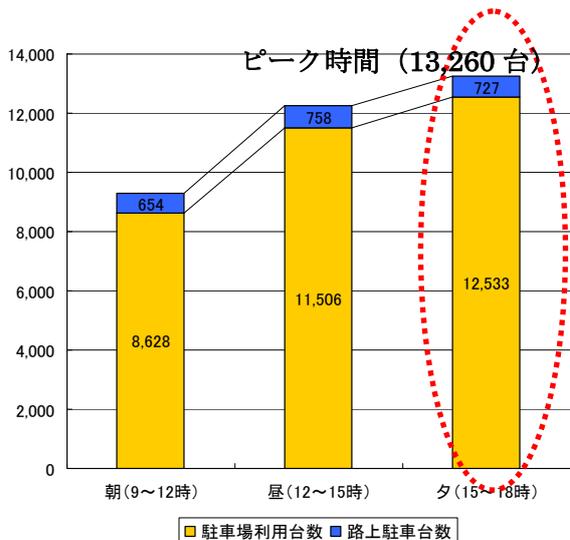


図 時間別の駐車台数、路上駐車台数（休日）

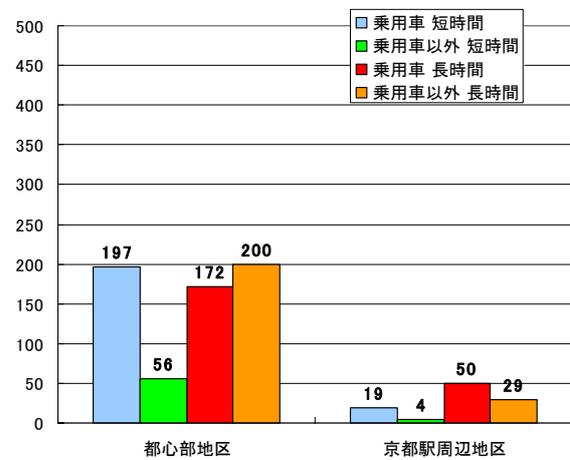


図 ピーク時の路上駐車台数（休日）

図 ピーク時の路上駐車状況（休日）

6 駐車場の不足量

現状では、時間貸駐車場の空き容量に、路上駐車台数を全て収容可能

駐車場の不足台数については、①現在路上駐車している車両が、②空いている駐車場を利用したとして、以下の手順で③「駐車場不足量」を算出した。

①路上駐車車両のうち、駐車場を利用できるのは、長時間路上駐車する車両のみと仮定する。これは、短時間路上駐車する車両は、駐車場を利用するのが困難であると考えたからである。

⇒ 5 路上駐車状況 「表 ピーク時の路上駐車状況」の「乗用車 長時間」、
「乗用車以外 長時間」を参照

②空いている駐車場は時間貸し駐車場、コイン駐車場とする。これは、どんな方でも自由に利用できる駐車場が時間貸し駐車場、コイン駐車場であるためである。

⇒ 4 駐車場の利用状況 「表 ピーク時の駐車場利用状況」の「時間貸し」、
「コイン」の「駐車場空台数」を参照

③ ②から①を引いて、駐車場不足量（(-)側が不足）を算出する。

不足量を算出した結果、都心部地域においても、京都駅においても、計算上、路上駐車（需要）は駐車場の空台数（供給）でまかなうことができる。

表 駐車場不足量の算出（平日）

			都心部地区	京都駅周辺地区	地区合計
①	長時間 路上 駐車	乗用車	159	16	175
		乗用車以外	435	38	473
		路上合計	594	54	648
②	時間貸 駐車場 空台数	時間貸駐車場空台数	3,512	1,163	4,675
		コイン駐車場空台数	974	259	1,233
		空台数合計	4,486	1,422	5,908
③	②-①	時間貸駐車場空台数	3,353	1,147	4,500
		コイン駐車場空台数	539	221	760
		駐車場不足量	3,892	1,368	5,260 ※

※(+)表示のため、
【供給>需要】

表 駐車場不足量の算出（休日）

			都心部地区	京都駅周辺地区	地区合計
①	長時間 路上 駐車	乗用車	172	50	222
		乗用車以外	200	29	229
		路上合計	372	79	451
②	時間貸 駐車場 空台数	時間貸駐車場空台数	3,215	669	3,884
		コイン駐車場空台数	722	119	841
		空台数合計	3,937	788	4,725
③	②-①	時間貸駐車場空台数	3,043	619	3,662
		コイン駐車場空台数	522	90	612
		駐車場不足量	3,565	709	4,274 ※

※(+)表示のため、
【供給>需要】

前回計画策定時と比較すると、駐車場利用台数および路上駐車台数が大きく減少

平日の駐車需給バランスについて前回（平成 7 年）と比較すると、専用駐車場の容量，時間貸駐車場の容量とも増加している。駐車需要は減少しており，特に時間貸駐車場の利用台数は約 1 万台から約 6 千台に減少している。また，路上駐車台数は約 2,700 台（920 台+1,742 台）から約 650 台に減少している。

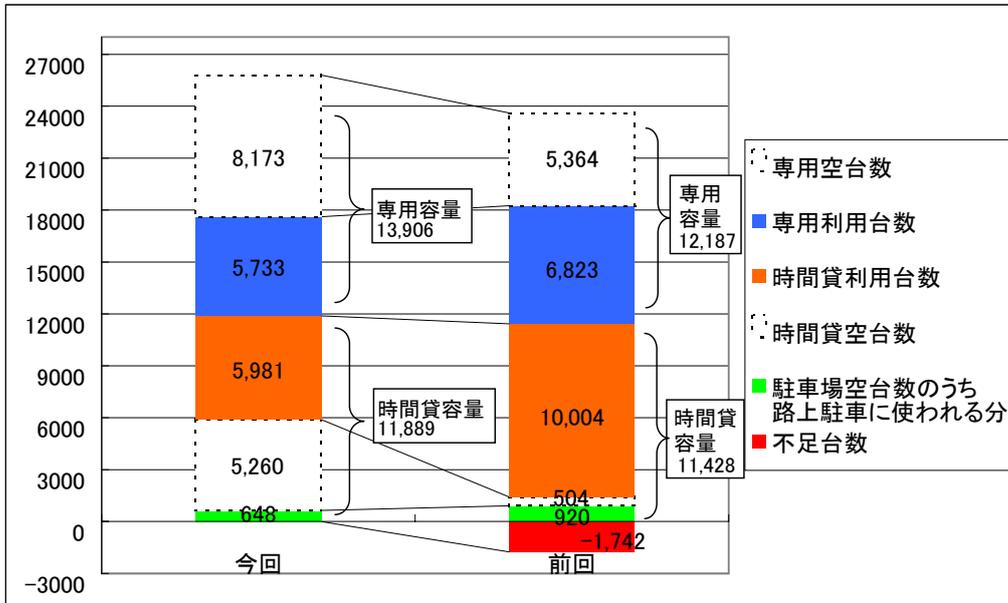


図 平日の駐車場需給バランスの比較（前回調査時との比較）

休日の駐車需給バランスについて前回（平成 7 年平日結果）と比較すると，専用駐車場の容量，時間貸駐車場の容量とも増加している。駐車需要は減少しており，特に時間貸駐車場の利用台数は約 1 万台から約 7 千台に減少している。また，路上駐車台数は約 2,700 台（920 台+1,742 台）から約 450 台に減少している。

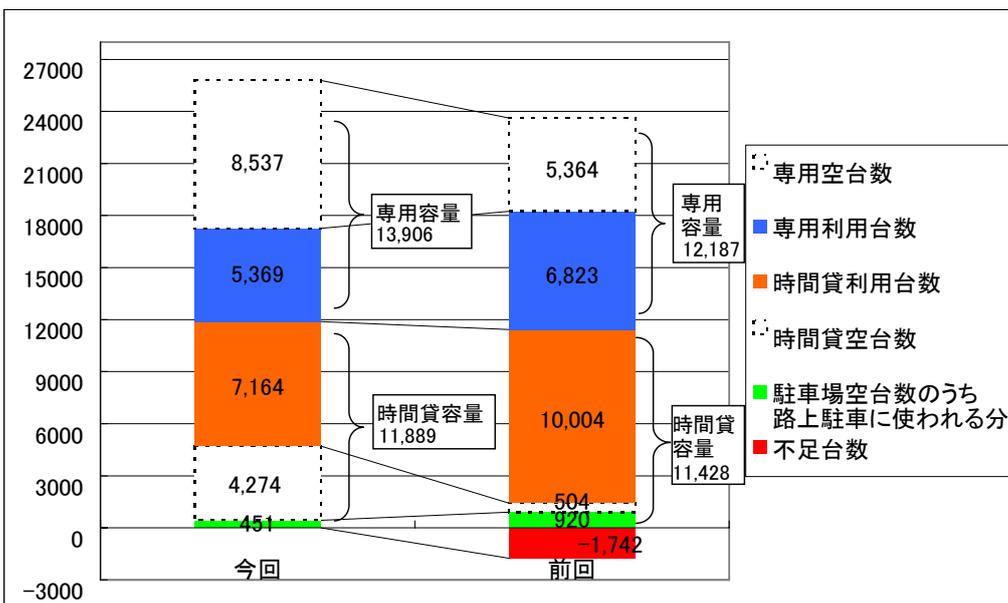


図 休日の駐車場需給バランスの比較（前回平日調査時との比較）

ただし、小規模な駐車場が他の用途に転用した場合には、駐車場容量が不足する

今後の駐車場の動向がどのように変化するかについては推測が難しいが、小規模な駐車場は持続性が乏しいと考えられるため、以下の3パターンを設定して、駐車容量の不足を算定した。

パターン1	駐車容量が20台未満の駐車場が全て転用された場合
パターン2	駐車容量が50台未満の駐車場が全て転用された場合
パターン3	駐車容量が100台未満の駐車場が全て転用された場合

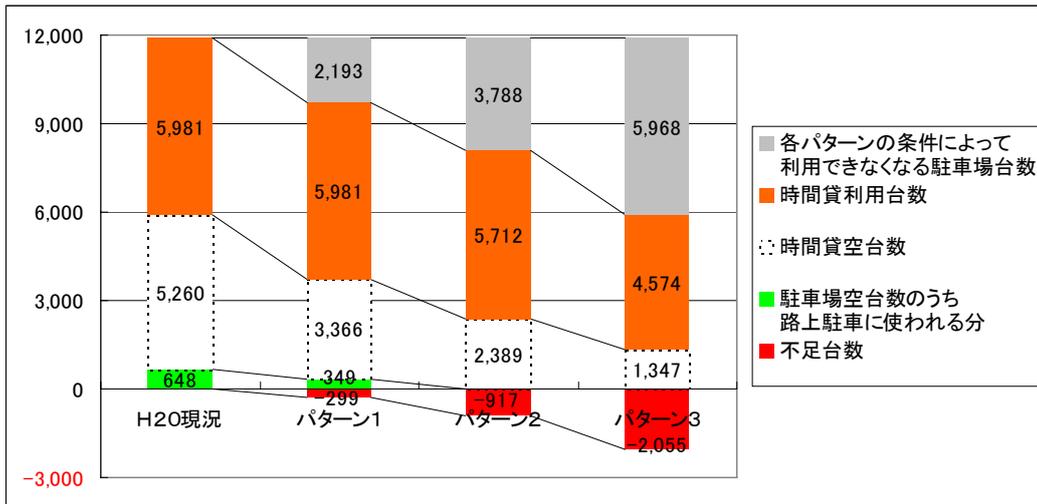


図 平日における想定パターン毎の駐車需給バランス

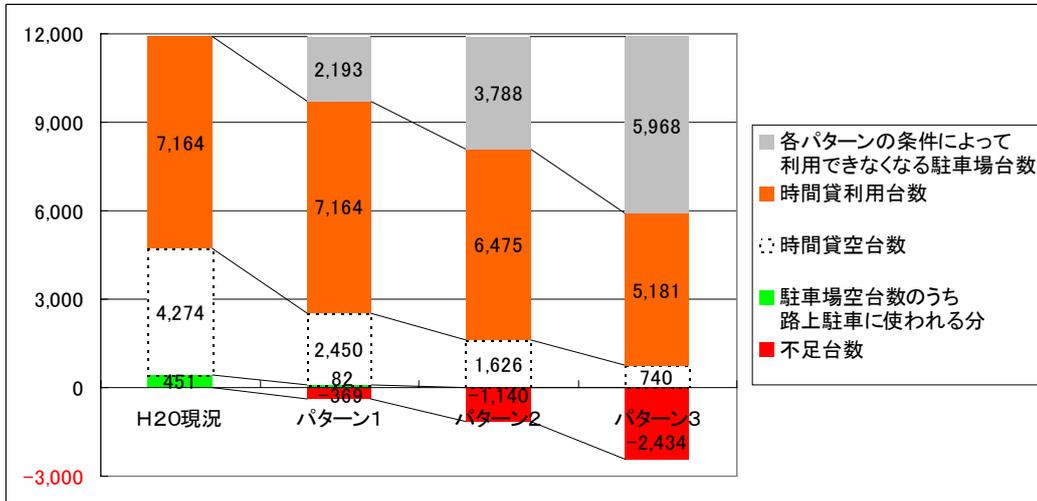


図 休日における想定パターン毎の駐車需給バランス

パターン1では、20台未満の駐車場は約2,200台の容量があり、駐車容量は約9,700台となる。このパターンにおける駐車不足台数は平日で約300台、休日で約400台である。

パターン2では、50台未満の駐車場は約3,800台の容量があり、駐車容量は約8,100台となる。このパターンにおける駐車不足台数は平日で約900台、休日で約1,100台である。

パターン3では、100台未満の駐車場は約6,000台の容量があり、駐車容量は約5,900台となる。このパターンにおける駐車不足台数は平日で約2,100台、休日で約2,400台である。

このように、駐車場の動向に応じて、駐車場が不足することが考えられるため、継続的に状況を把握しながら、駐車場の整備・維持についての検討が必要である。

7 自動二輪の駐車需要

平日では約 200 台、休日では約 300 台の駐車需要がある

自動二輪の駐車需要は以下の通りである。平日では駐車場利用が約 170 台、路上駐車が約 30 台で合計 200 台ほどの需要があり、休日では駐車場利用が約 280 台、路上駐車が約 20 台で合計 300 台ほどの需要がある。

これら自動二輪車の駐車需要に対する方策を検討していく必要がある。

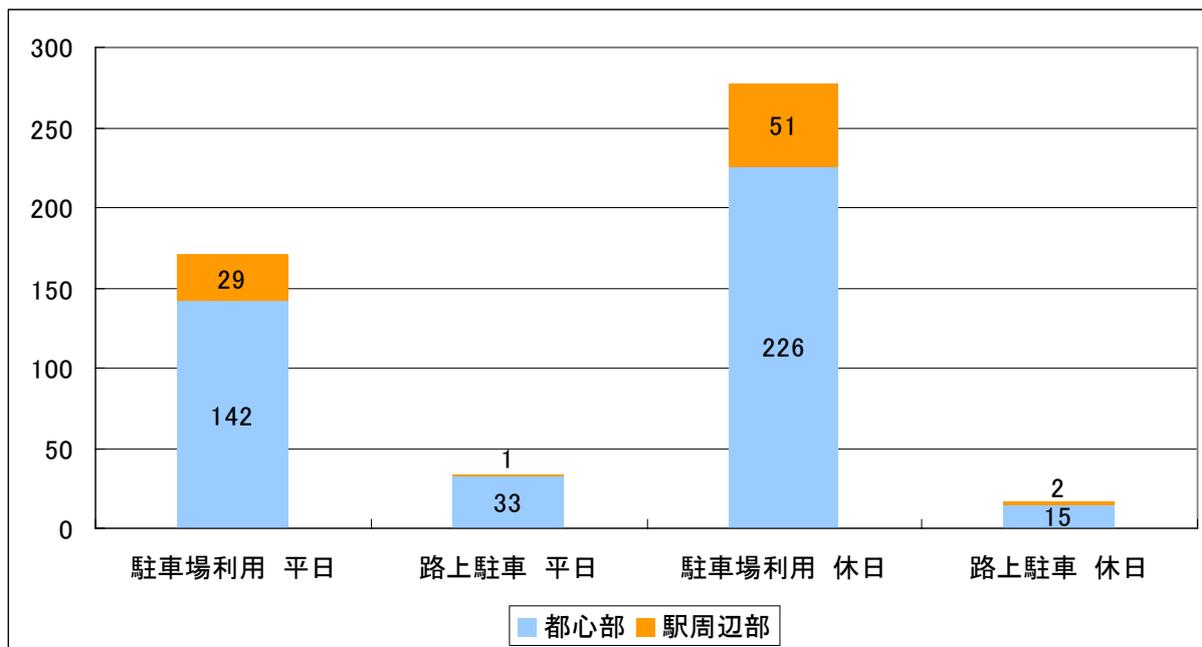


図 自動二輪の駐車需要

8 荷捌き貨物車の駐車需要

駐車場容量が十分であっても、荷捌き貨物車の路上駐車が存在する

荷捌き貨物車の駐車需要（貨物車の路上駐車）は以下の通りである。平日で約 530 台、休日で約 160 台の駐車がある。

これら荷捌き貨物車の駐車に対する方策を検討していく必要がある。

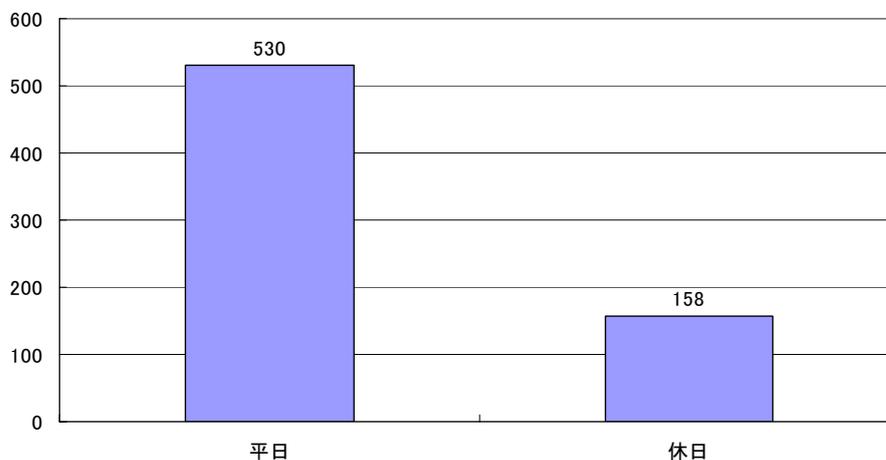


図 荷捌き交通の駐車需要